

暮らしと健康の月刊誌

# ケア

5 2013  
MAY



- 化粧品による皮膚トラブル
- 肘に多いスポーツ障害
- 悪性リンパ腫 ●結膜の病気
- ランニング障害

自分に合った化粧品の選択が大切

化粧品による

皮膚トラブル

女性の生活に欠かせない化粧品。近年は男性向け化粧品の開発も増えており、男女問わず広く使われている。しかし、成分によっては「かぶれ」など皮膚トラブルの原因になってしまうこともある。化粧品による皮膚トラブルや注意点について、加藤直子皮膚科スキンクリニック（中央区）の加藤直子院長に聞いた。



加藤直子皮膚科スキンクリニック  
加藤 直子 院長

スキンケアの「かぶれ」

化粧品が原因となって起こる皮膚トラブルの代表的なものが「かぶれ」。うるしなど、自然界にあるものでもかぶれることがあり、経験がある人も多いだろう。

医学的には接触皮膚炎と呼ばれており、主な症状としては湿疹状になり皮膚の一部が赤くなる紅斑や虫さされあとのような丘疹、小さな水ぶくれなどが挙げられる。痒みやヒリヒリと熱くなるような感覚を伴い、慢性化すると皮膚がゴワゴワとし硬く厚くなる苔癬化などにもつながってしまう。

「接触皮膚炎は原因によって大きく三つのタイプに分けられており、それぞれのタイプを見極めたうえで診断が重要です」（加藤院長）。

一つ目は「刺激性接触皮膚炎」。皮膚の表面を覆い、バリア機能を担う角層に対して刺激性の物質が付着、皮膚の傷などから侵入することによって起こる。侵入した物質が、表皮の九五%を占める「角化細胞」を刺激することによって、サイトカインやケモカインといった、炎

症に関与するタンパク質を作り出し、これらのタンパク質が炎症の原因となる物質へと浸潤すること  
で、炎症が起こると考えられている。

二つ目は「アレルギー性接触皮膚炎」。これは、化粧品に含まれているある化学物質が、その人にとってのアレルゲンとなり、再びその化粧品を使うことによるアレルギー反応として、接触皮膚炎が起こる現象だ。

皮膚におけるアレルギー反応について説明しておこう。

まず、アレルギー反応の原因物質（抗原）を認識する役割を持つ細胞（皮膚樹状細胞）が、捕まえた抗原の情報を免疫システムの中心を担うTリンパ球に伝達する。Tリンパ球は情報からその物質を異物と認識し、その後、リンパ節内で増殖・分化して接触アレルギー反応を起こす細胞になる。抗原に対して敏感になった状態は「感作」と呼ばれる。

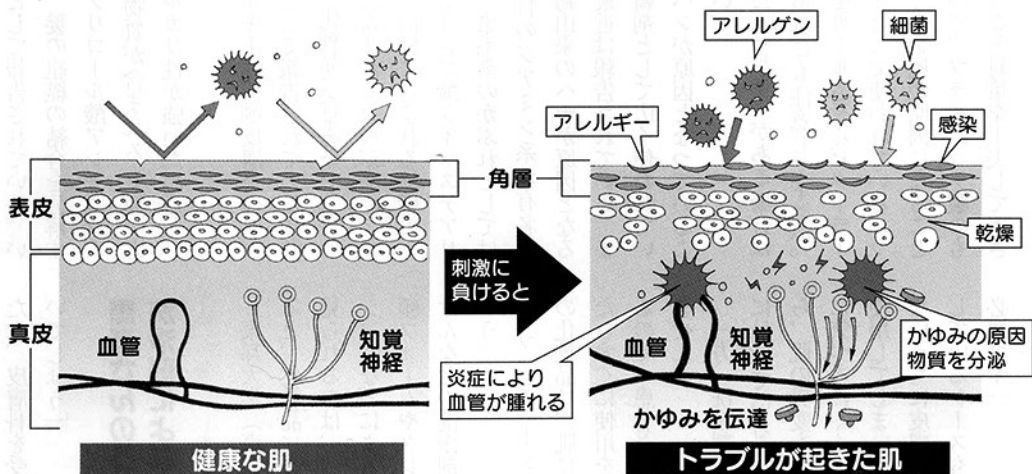
ある物質に対して感作が成立したあと、その物質に再び触れると感作Tリンパ球が活性化されてサイトカイン、ケモカインが産生、放出され、これが炎症の原因となる。この反応は「惹起」と呼ばれる。

る。アレルギー反応は感作と惹起という二段階の反応によって引き起こされるといえる。

三つ目は「光接触皮膚炎」。光

毒性接触皮膚炎」と「光アレルギー性接触皮膚炎」の二種類に分けられる。

光毒性接触皮膚炎は、皮膚上に



皮膚の炎症は異物の排除機構が働いている状態だ

## パッチテストの判定基準

(日本皮膚科学会による接触皮膚炎診療ガイドラインより)

本邦基準	反応
-	反応なし
±	軽度の紅斑
+	紅斑
++	紅斑+浮腫、丘疹
+++	紅斑+浮腫+丘疹+小水疱
++++	大水疱

付着した物質に、太陽などの紫外線が当たること、活性酸素が生成され、皮膚の組織や細胞に障害を与えることによる皮膚炎。

一方の光アレルギー性接触皮膚炎は、アレルギー性接触皮膚炎と同様に感作と惹起の反応によって起こるが、紫外線の照射が追加されて反応が起きる点が異なる。

## 接触皮膚炎の原因物質

では、化粧品の中ではどのようなものが原因になっているかを見てみよう。

まず、刺激性接触皮膚炎では、パーマ第一液や除毛クリームが刺

激物質として報告されている。いずれも、髪の毛の組織の結合を分解するチオグリコール酸アンモニウムという物質が含まれるものがあり、アルカリ性が強いためだという。

アレルギー性接触皮膚炎の原因になると報告されている物質の中で、化粧品に含まれるものは、美白剤に含まれるコウジ酸やアルブチン、口紅に含まれる油脂の一種であるリンゴ酸ジイソステアールなど。染毛剤のかぶれとしては化学染料のジアミン系が有名だが、植物由来のヘナが原因となる事例も最近は報告されている。また、防腐剤として広く使われているパラベンが原因となっていることも多い。

「金属アレルギーがある場合はメイク道具にも注意して下さい。まつげをカールさせるビューラーのメッキとして使われているニッケルなどの金属が原因になることがあるので、プラスチック製のものを使うなど対策を工夫して下さい」。

光接触皮膚炎の原因となる物質は湿布薬なども含まれているので、「頸部や手首などの日光に当たる部位に湿布を貼って紅斑が出

たら、皮膚科を受診したほうが良いでしょう」。

## 患者やNGAの

## 洗剤による接触皮膚炎

東邦大学（東京都）の調査によると、化粧品によるかぶれで多く見られるのは、口紅やファンデーションなどによるものよりも、洗顔フォームやクレンジング剤、石けんなどの洗剤によるものだという。

「ファンデーション、口紅などの化粧品は、肌合わないと感じたらすぐに使用をやめる傾向があるので、患者さんの数は多くありません。

一方、洗剤は一度の使用で肌にかけている時間が短いことから、肌の異変も少しずつ進むために気づきにくく、長期間継続して使用してしまいがちです。気づかないうちに皮膚炎を発症し、悪化しているケースも多いので注意が必要です」。

## 診断と治療

接触皮膚炎は、皮膚炎の原因と

なっている物質を明らかにし、その物質が含まれている化粧品品の使用を中止することが大切となる。

原因究明を行うのがパッチテスト。皮膚炎の原因となっていることが疑われる物質を染み込ませたパッチテストユニット（パッチテスト用）に開発された絆創膏を背中中に四十八時間貼り付け、その後皮膚の反応を検査する。紅斑、むくみ、丘疹、水疱などの反応を診て、陽性か、陰性かを判断する。特定の物質が疑われる場合、さらにテストを重ねて確定診断をつける。

治療方法としては、パッチテストによってアレルギーと分かった物質が含まれている製品の使用をやめるとともに、ステロイド剤や抗アレルギー剤を処方。重度の場合はステロイドホルモン剤を内服することもある。

## 信頼性の高い化粧品を選ぶことが大切

「最近では、非常に安価な化粧品も手に入りますが、それが原因で接触皮膚炎を起こしてしまうケースもあります。そうした化粧品の中には外国製のもので成分が表

示されていないものもあるので、注意が必要です」。

加藤院長が推奨するのはある程度有名なメーカーの化粧品を使うことだ。

「大手メーカーが販売している化粧品は莫大な研究・開発費用がかけられています。それだけに、医師からみても高品質で安全性の高いものが多く、実際にアトピーの乾燥肌緩和などにも役立っています。また、使用している全成分を表示しているほか、アフターケアの体制も整っているので、トラブルがあったときでも安心です。



皮膚トラブルを深刻化させないためにも、自分に合った化粧品を使うことが大切

こうしたメーカーがデパートなどに配置している美容部員も知識が高く、化粧品を選ぶ際には相談に乗ってもらうことをお勧めします。

また、化粧品を使うことで肌のトラブルを抱えてしまった場合には、まず皮膚科を受診することが大切です。

「ある化粧品が原因でかぶれているのに、原因がわからずにその化粧品を使い続け、重症化してしまった患者さんも過去にいました。おかしいなと思ったら、すぐに皮膚科を受診してください」。